

会員の自主的な活動で女性グループや互助会が活性化

公益社団法人舞鶴市シルバー人材センター（京都府）事務局



「歌声サロン」（写真上）は、昔懐かしい歌聲喫茶のよう、生伴奏と司会者のリードで、さまざまなジャンルの曲をみんなで楽しく歌つ大人気イベント。（写真右）令和元年度は二十人が参加して、料理教室の指導の下、三品を作った

互助会では、「新春の集い」「日帰りバス旅行」「ハイキング」「女性の料理教室」「男の料理教室」「健康講座」「レクリエーション大会」「同好会」など、会員の要望を踏まえたさまざまな事業を通年で実施。交流と親睦、健康増進に一役買っています。

特に、平成二十九年から始まった「男の料理教室」は男性会員からの要望で開催したものです。令和元年度は二十人が参加して、料理方法によって摂取できる栄養素

展示会（版画、竹細工、人形、手芸品等）や音楽コンサートなどを開催して、会員以外の市民も来場できるイベントを開催しています。

交流サロンの活動では、昔懐かしい歌を会員の司会と事務局職員も加えた楽器演奏で歌う「歌声サ

ロン」（年数回開催）を実施してきました。回を追うごとに参加者が増え、五十人程度が収容できる交流サロン室では希望者が入りきれないほどになりました。このため令和元年度からは、センターの施設を離れ、広い施設や交通の便を

考課して地域を変えて実施するなど、参加者の要望に応えました。その結果、さらに参加者が増えて八十人を超える盛況ぶりです。

このような活動が評判になり、中学校区の敬老会での出張開催に声が掛かるなど、就業としての広がりにつながる副次的効果も発生しています。

「男の料理教室」など 互助会も多様な事業を展開

今後の課題と方向

令和元年度の会員数と契約金額は、前年度を上回る実績で推移しています。しかしながら、当センターも、企業の定年延長や人口減少、行政からの受注減少という環境の中で、「会員の拡大」「就業機会の確保・開拓」が重点課題となっています。

今後とも「自主・自立、共働・共助」の理念の下、役職員と会員とが一体となって、これらの課題にしつかりと取り組んでいきたいと考えています。

京都府の北部に位置する舞鶴市は、日本海に面した港湾都市です。港湾を基盤にした産業や官公署が数多く立地しており、近年では貿易や北海道とのフェリー、クルーズ船の寄港地として外国からの観光客も受け入れています。

また、NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公・明智光秀の娘（細川ガラシャ）の嫁ぎ先である細川家の居城跡が残る城下町でもあります。

団法人に移行しました。平成三十一年度の会員数は七百九十一人、契約金額は約三億六千三百万円（労働者派遣事業を含む）でした。また、平成三十年度には設立三十周年を記念して、式典とシルバーフェアを開催。会場の赤れんがパークには三千人を超える来場者が訪れ、市民にも活動を大きくアピールすることができました。

女性自主活動グループ「すみれの会」設立三十周年記念事業で高まった熱い思いを、シルバー事業の発展と地域貢献に結び付けたいと、女性グループ「すみれの会」（約四

十人）が自主的に集まり、①アロマオイルを使ったハンドケアの提供②センター事務所周辺の花いけばい運動③手縫い雑巾（千枚）の製作および寄贈④イベントでのおにぎり・焼き込みご飯作りなど、工夫を凝らした幅広い活動でシルバー事業の周知・広報に活躍。女性の新入会員も着実に増えています。③の手縫い雑巾は、市内の介護施設や学校、幼稚園など六か所に寄贈して大変感謝されました。

この活動は、新聞でも大きく取り上げられました。

市民交流・地域貢献を図る 交流サロンなどのイベントで視察研修を行い、事業の参考にして取り組んでいます。

平成二十六年からセンター施設内に交流サロン室を設置し、会員の憩い、市民との交流の場を提供。



女性グループ「すみれの会」の活動。写真左は、手縫い雑巾の寄贈



アロマオイルを使ったハンドケア。写真右は、手縫い雑巾の寄贈